

江戸時代の村や町の様子を知る手掛かりは色々ありますが、視覚的に理解できるという点では、絵図資料に勝るものはありません。なかでも、村の様子を詳細に描いた村絵図は、津山にとって特に重要な意味があります。

江戸時代の地域を町と村に分けて考えると、城下町は当時の都市計画に基づいて作られており、その構造が現在もかなり残っているため、城下町絵図や古文書類により、復元的なイメージが作りやすいものです。

しかし、農村というのは必ずしも計画的に造られておらず、しかも現在に至るまでの変化があまりにも大きいため、当時の様子を思い浮かべるのは容易ではありません。そこで、詳細に描かれた村絵図がその力を発揮することになります。

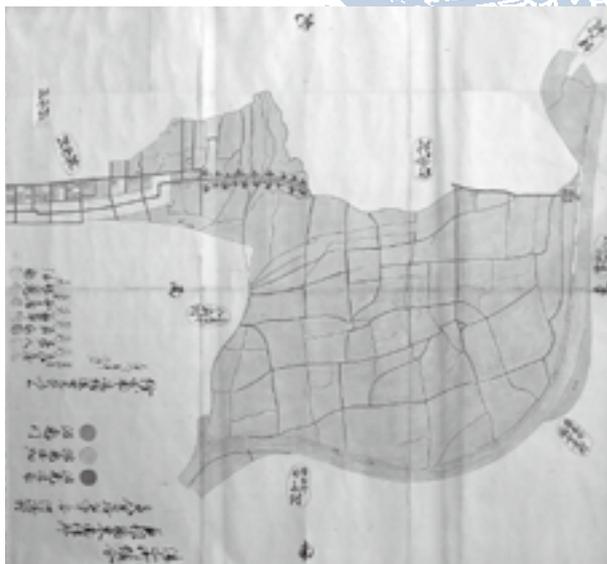
津山郷土博物館に保存されている村絵図は色々ありますが、特徴的な村絵図として、天保8年(1837)のものがあります。それは、彩色された美しい絵図で、津山藩領内のすべての村について同時期に作製されていたものではないかと推測されます。

つまり、現在発見されているのは数十カ村分なのですが、各大庄屋の管轄分の村絵図が、それぞれとまって残されており、同じ天保8年に作製されていることから、藩の方針によって津山藩全体の村絵図が作製されたと考えられるのです。

絵図の大きさは統一されてはいませんが、おおむね80cm四方で、村の形通りに描かれています。そして、丁寧に彩色されており、道路が赤、田畑が黄色、川やため池が水色、山が灰色などと

津山城百聞録

～天保8年の村絵図～



▲河崎村(現在の川崎付近)の村絵図

なっています。集落では、家の形の絵が複数書き込まれており、神社の周囲の森や松並木では、独立した樹木が絵画的に描かれていて、見た目にも分かりやすくなっています。

また、絵図の四隅には方位が記され、村の周囲には隣接する村々の名前が入れられています。そして「津山御領分美作国東南条郡、高八百七十八石九斗三合、河崎村」といった書き込みがあって、その後に村の組頭・庄屋が連名で記名押印し、内容に誤りがないことを保証しています。

こうした厳密な仕様から考えると、藩の正式な書類としての絵図であるばかりではなく、天保期の国絵図の作製に関連した、村ごとの調査絵図であったのかもしれない。

7月中のひとの動き

人口	110,515人(前月比△89)		
男	52,711人(同△48)		
女	57,804人(同△41)		
世帯	43,597世帯(同△19)		
転入	231人	転出	306人
出生	85人	死亡	99人

(8月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

つぶ・や・き

編集室

暑い夏でしたね。やっぱり異常気象のせいなのでしょう。子どもたちの学校も無事(?)始まり、やっと過ぎやすい季節がやってきます。読書の秋、スポーツの秋、そして食欲の秋。あなたはどんな秋を楽しみますか? (和)

めぐみ荘へ行ってきました。和室6畳を借り、お弁当を持ち込み、温泉に何回も入りました。大人3人で1,750円、一人当たりなんと584円という安さ。しかも、館内は清潔で快適。5種類の浴槽で肌に磨きがありました。(2)

2さんに対抗! ではないのですが、私も阿波温泉で「津山の温泉デビュー」。入ったのは「やすらぎの館」(一般500円・小学生200円)で露天風呂あり、泉質良しで安らげました。美作三湯もいいですが津山の温泉も魅力ですよ。(X)

つやま 広報

9月号
平成19年
2007
635号

編集・発行(毎月10日発行)
津山市企画部市長公室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

